

(1) [校長・教頭・事務長]

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和2年度一般入学者選抜では、府内全日制高校の平均倍率が1.13倍で、志願者が募集定員に届かない高校も多数あった。その中で、2年後に堀江中学校校地となることにより、新高校への統合・移転が決定し、新設の「教育情報科」80名のみの募集という条件となった西高校には99名の志願者があり、1.24倍という大阪市立では東高校の1.30倍に継ぐ高倍率となった。このことから、昨年度までの教育実践への高い評価と継承する新学科についての十分な理解をいただいた結果、統合・移転による母校喪失を払拭するだけの、圧倒的な支持を得ることができたものと考えられる。

昨年度末の進路状況も、きめ細かい進路指導によって、就職内定率は100%を継続し、進学も国公立4名(うち1名は国立高専編入)、関関同立10名、産近甲龍11名という結果を出している。

これまでの英語科・流通経済科・情報科学科による実績は、十分に評価されているが、新学科である教育情報科が今年度よりスタートする。職業観・世界観・人生観が大きく変化していくSociety5.0の時代を、しっかりと生き抜く力を身につけ将来の目標を実現できる生徒を育てるために、西高校ならではの取り組みで、一人一人にコア・コンピタンスとなるスキルやノウハウを習得させられるよう、教育内容の精査を勧めており、それを3学科の在校生にも適用し、一歩先の高校教育を進める。

そのために、高大連携のさらなる強化・発展と産学連携の本格導入によって、4学科それぞれが専門性の高い教育に努めなければならない。西高校の素晴らしい教育実践をさらに発展させ、生徒たちが西高校を選択したことに誇りを持てるよう、私たちは大切に考え、責任を持って対処していきたい。

中期目標

令和2年3月改訂の「大阪市教育振興基本計画」でも、2つの最重要目標は変わらない。西高校では、従来通りこの2つの目標をベースに課題解決をめざすため、次の中期目標を掲げる。

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

西高校では、いじめ・体罰に関連する問題事象は昨年度も確認されていない。これは、生徒たちの穏やかで真面目な気質と教員のきめ細かい指導の賜物である。一方で、SNSの悪用など、現代社会が持つ様々な危険から自らを守り、加害者にもならないように、人間としての正しい価値観やモラルを身に付けさせなければならない。そのために、授業はもとより学校行事、HR活動、保健指導、部活動指導等のすべての教育活動で対話を重視した実践をさらに強化する必要がある。

また、再編統合へと向かう状況の中で、生徒たちがやる気をなくしたり、寂しい思いを抱かせないために、学校全体として退潮ムードが蔓延しないよう全力を挙げて取り組む必要がある。

いずれにしても、これまで西高校が行ってきた人間力の育成を継承・発展させ、生徒と一体感のある教育を展開することが重要である。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

再編統合のプラン構築段階を迎え、新しい高校での教育目標や学科構成、カリキュラムデザイン、各種規定等、検討課題が多い。そんな中、英語科・流通経済科・情報科学科・教育情報科という専門学科で構成される西高校では、新高校に継承すべき専門教育を見極め、更なる発展・充実を目標としなければならない。また、教育大学も含めた大学進学が重視される新校においては、基礎学力の定着が重要となる。よって、中期目標として専門教育の充実と基礎学力指導の充実を最重要課題とする。西高校は統合までの2年間の中でも、その存在感を示すとともに、より発展した教育の形を新校で作り上げる役割を担っていきたい。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

生徒指導のあらゆる場面において対話による指導を実施し、いじめの発生を防ぐとともに生徒の問題行動が増加しないようにきめ細かい指導を徹底する。本年度は大阪市教育振興基本計画の施策1～3および施策8に基づき、具体的に次のような目標を設定する。

- ①生徒と教員の対話によりお互いの意思の疎通をさらに深めるとともに、事件を起こさないように事前指導の充実に努め、問題行動による特別指導の件数を増やさない。
- ②折に触れ、基本的な生活習慣指導を行い、皆勤・精勤の生徒を減らさない。
- ③日々の学校生活はもとより、学校行事や団活動、HR活動、部活動の充実に努め、生徒の学校に対する満足度をさらに高める。
- ④すべての教員がカウンセリングマインドを持ち、人権教育はもちろんキャリア教育、健康教育等を充実させ、不登校生徒や中途退学者を増やさない。
- ⑤すべての校務分掌で、道徳心・社会性の育成に努め、学校協議会等からの高い評価をめざす。
- ⑥再編統合から派生する風評被害等に屈することなく、生徒募集や学校PRに努め、地域はもとより多くの市民から支持される学校をめざす。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

英語科・流通経済科・情報科学科の専門教育を充実させ、本市が積極的に取り組んでいる英語教育とICT教育の充実に貢献する。また、再編統合に当たって、確かな専門力を育成するために必要なシステムや教育内容について研究・検討を重ね、西高校としての高い教育力を示す。並行して基礎学力の定着についても取り組むが、専門教育の充実に第一目標として設定する。本年度は大阪市教育振興基本計画の施策5, 6, 8に基づき、具体的に次のような目標を設定する。

- ①英語科生徒はもちろん、他科の生徒に対してもC-NETとの連携強化やICT機器の積極的導入によりコミュニケーション指導を充実させる。そのための施設・設備の充実と教材開発を行う。
- ②英語教員の研修を充実させ、本市の英語教員のリーダーとなれるような人材育成に努める。
- ③情報教育の専門知識が豊富な指導者の発掘に努める。
- ④大学教育との連携をさらに強化するため、現在実施している様々な事業を継続・発展させるとともに、新たな企画を立案し実践する。
- ⑤進学希望者への指導をさらに充実させ、大学への合格実績を伸ばす。

3.本年度の自己評価結果の総括

生徒－教員間の意思疎通は、日常の細やかな対応と個別の補習指導や生徒会行事への取り組みなどから非常に深まっており、懲戒指導も2件と少なく年度末を迎えた。臨時休業からスタートしたことで、基本的な生活習慣の確立が不十分な状況が大きな課題となる一方、家庭学習の習慣化や自主学習の姿勢は順調な成長がみられ、来年度に継続した効果が期待できる。高大連携や姉妹校交流など実施不可能となった取り組みも多いが、例年の取り組みをヒントに校内実施を試行したり、オンライン交流に取り組んだ結果、大きな成果を上げている。新型コロナによる学習活動の制限を逆手にとり利用できたことは、本校教員と生徒たちの努力と協調によるところが大きく、西高校の強みでもあると感じている。元の環境に戻った際も、この実績は継続した効果を生むことができるため、通常の学習活動との相乗効果が期待できる。

(2) [教務部(データシステム管理部)]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

令和4年度の新校統合、また新学習指導要領実施に向けて新学科の教育課程を編成してきたが、それを実施するための具体的な内容のさらなる検討が必要である。さらに校内における多岐にわたる事務作業の増加に対応するべく、パソコンなどの利用をより効率的に行う必要に迫られている。

校内で使用している電子データは、同一データの繰り返し入力や、データ更新が統一されないなどの問題点を含んでいる。このようなデータ構造を見直し体系化することにより、データの一元化・作業の効率化を進め、データ管理体系を構築していく。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

組織的な学校運営を行い、新学科、新教育課程の内容を熟考し、社会の変化に対応できる人間を育成する教育活動を推進する。

データシステム部統合により、入試処理・成績処理・調査書作成の各システムを改良するとともに、システム間でもデータの共用化など連動部分を強化する。また選択科目システム・時間割作成システム・名列表作成システムのデータ共通化と操作性の向上をめざす。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 授業時間数の確保を考え、年間行事を計画する。
- ② 新教育課程の実施に向けての内容を検討する。
- ③ 追認対象者を減らすとともに、その指導を徹底する。
- ④ 入試・選択科目・時間割作成・名列表作成システムのデータ一元化と修正をする。
- ⑤ 成績処理・調査書作成システムの改良をする。

3. 本年度の自己評価結果の総括

- ① コロナ禍の影響で休校日数が増えたが、休日授業日や時間割変更等を実施し、授業時間数の最低限の確保とともに科目間の授業時間差異を極力少なくすることができた。
- ② 新学科の教育課程について、現在の3学科のそれぞれの強みを継承をしつつ、現代のニーズに合った教育課程を編成することができた。
- ③ 追認試験対象者を例年より少なくすることができた。
- ④ 新学科1年目ということで、入試・時間割作成・名列表作成システムの改良を行い、運用することができた。
- ⑤ 成績処理・調査書作成システムについて、今年度、問題になった点についての改良を加え、運用しやすいものとなった。

概ね、年度当初の目標を達成できた。統合に向けてしっかりと準備ができています。

(3) [総務部(図書視聴覚部)]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

- 令和4年度の新校統合に向けて魅力ある高校のデザインに総務部として関わり、本年度より始まる教育情報科と合わせて新校の魅力を中学校や大阪府全域に伝える広報活動をスタートしていく。
- 昨年度、新校統合へと向かう状況の中でも、定員が充足した。これは、西高校の教育が評価され、新学科のコンセプトが支持された結果である。来年度、西高校としての最後の募集となるが、体験入学、学校説明会、中学校訪問等を通して、本校の魅力がさらに伝わるよう、積極的なPR活動を推進する。
- 大阪市・大阪府の国際化戦力プログラムへの参加や姉妹校との国際交流事業を通して、グローバルな視点から生徒の道徳心・社会性をさらに育てる。
- 授業参観などの行事やPTA活動を充実させることによって家庭との相互理解を深め、西区の行事への積極的な参加を通して地域連携をさらに深める。
- 図書室への来室者数は増えてきてはいるが、今後の課題として図書室の利用を促すための動機付けをより一層工夫していくことが必要である。

中期目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 国際交流事業が全体的・日常的な取組みになるよう基本的理念の周知を図る。
- 国際交流事業としての研修旅行のさらなる充実に向けて、実施計画を練り上げていく。
- 中学校訪問について、過去のデータを整理し中学校に持参するデータの内容を充実する。
- PTA活動と学校の教育活動が機能的に連携するように努める。
- 体験入学や学校説明会において、西高校および教育情報科の魅力を伝え、中学生の志望のきっかけとなるよう、各学校へ広報活動を積極的におこなう。
- 西高校および教育情報科の魅力をアピールするため、体験入学チラシ・学校パンフレット・学校紹介ポスター等を新しく作成する。
- 感受性を育成するとともに、読書習慣の定着をめざす。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 本年度の国際交流事業を、来年度につながる形で遂行する。
- ② 国際交流事業として姉妹校2校との交換留学・相互訪問・受け入れを、新学科への移行を視野に入れながら、計画・準備する。
- ③ 中学校訪問について、過去のデータを吟味し、適切な時期など訪問計画を策定する。
- ④ 教育活動への保護者の理解を深めるため、授業参観を実施する。
- ⑤ 新入生対象のアンケートを実施し、その結果を踏まえて広報活動・体験入学などの内容を精査し、内容の充実を努める。
- ⑥ 体験入学チラシ・学校パンフレット・学校紹介ポスター等を新しく作成する。
- ⑦ 生徒の感受性育成の一助として、全学年を対象とした視聴覚行事を実施する。
- ⑧ 図書室の環境整備に取り組む。
- ⑨ 大阪市立中央図書館と連携して、生徒の読書習慣の育成を推進する。

3.本年度の自己評価結果の総括

新型コロナウイルスの影響や激動する西高の変化に伴い、多くの活動や行事が中止や変更を余儀なくされ、全てにおいて例年以上にフレキシブルな対応が求められたが、教職員間、保護者、地域、姉妹校との連携など、すべての面から協力を得ることができ、目標を上回るほどの成果が見られた。

①広報活動については、新入生アンケート結果や各分掌からのデータを基に、パンフレットを改良し、新しくポスターを作成した。コロナ禍で中学校を訪問することが出来なかったが、学校紹介動画を上げるなどHPによる情報発信を強化した。本校での学校説明会3回(コロナの影響による4回中1回が中止)、体験入学2回を開催した。説明の際には、6部屋をオンラインで結び全体説明をおこなうなど感染症対策もできる限りおこなった。参加者アンケートにおいても「満足している」という回答割合が昨年度よりもアップし、情報分野・英語分野への良い印象や「楽しそう」「雰囲気が良い」などのコメントを多数いただくなど、本校の魅力を十分に伝えることができた。

②国際交流活動としては、コロナ禍のため、例年行っている姉妹校交換留学や研究旅行が中止となり、海外からの訪問団来校も来年度へ延期になった。そのような状況ではあったが、姉妹校の先生方と密に連絡を取り合い、遠隔会議アプリを使って、日本とオーストラリアを繋ぎ、交流を行った。

③図書室では、中央図書館との協力・連携により、読書習慣の育成を推進した。図書委員に協力してもらいながら、西高生が選んだ本を詰め合わせて市民の方々に貸し出す「本の福袋展」を実施した。地域社会における図書館の役割について学び、読書を通して地域の人々と触れ合う機会を設けることができた。コロナ禍により、感受性を養う芸術鑑賞(ジャズオーケストラ)は来年度に延期となった。

PTA活動としては、文化祭、スポーツ大会などの行事はPTA新聞発行を通して、学校と家庭との相互理解に努めた。体育祭は保護者参加不可となったため、PTAが中心となって映像を撮影し、記録したDVDを3年生に配布した。西区の種々の行事は残念ながら全て中止になった。

(4) [生徒指導部]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

- 本校は現在、落ち着いた環境で教育活動が行われているが、この教育環境を維持し発展させるため、生徒の基本的な生活習慣の向上と人権尊重の精神の育成を図る必要がある。
- 生徒会を中心とした学校行事、団活動やクラブ活動への関心をより一層高め、自立・共生の精神を育て、生徒個々の自己実現につながるよう指導する必要がある。

中期目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 基本的な生活習慣の確立と人権を尊重する精神を育成し、いじめの根絶と安全で安心な学校をめざす。懲戒件数年間0を目標にする。
- 生徒会を中心に、全校生徒が学校行事やクラブ活動に積極的に参加できる環境を整え、生徒個々の自己実現の支援を行う。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 遅刻0の日の増加をめざすとともに、服装、頭髪、言動の乱れをなくす。また、挨拶が1日の始まりとなるよう挨拶の励行を行う。
- ② 全体集会や講演会で人権を尊重する大切さを訴え、他者を思いやる心、共に生きる共生の心の育成を図るとともに 警察と連携し交通規則の順守、いじめや差別を許さない意識向上をめざす。
- ③ 生徒指導部と全校生徒とのコミュニケーションをできるだけ密にとるように努め、事件が起こってからでの指導ではなく、事件を起こさないように事前の指導に力を注ぐ。問題行動の実態把握と未然防止に取り組む。また、SNSの危険性を伝え、利用にあたってのモラルの向上をめざす。
- ④ 1年生の部活動加入率7割以上をめざす。また団活動、部活動を通じ学年を超えた協力関係を築き、リーダーシップや自主性、連帯感、共生の精神を養う。
- ⑤ 生徒会執行部と各クラスの連携を深め、学校行事の運営に関わっているという自覚や責任感・充実感を持たせる。裏方で行事を支えてくれている人がいることを理解し、感謝の気持ちを持てる生徒を育てる。

3. 本年度の自己評価結果の総括

懲戒件数は2件であった。髪を染める生徒が多数いたが、継続的な指導のうえ改善を促した。今年度の遅刻・欠席はともに増加傾向にあるが、社会情勢や校内での指導のあり方などを踏まえて原因に対してアプローチしていく必要がある。

生徒会行事については、多数の生徒および各分掌先生方に協力いただき、コロナ禍においても感染症対策を強化しながら実施することができ、数多くの成長の場を提供することができた。

(5) [進路指導部]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

生徒の進路目標をより高め、一人ひとりに応じた指導を充実させ、進路を主体的に考えることができる指導をめざす必要がある。

就職について、求人数は増加傾向にあるが希望の多い事務職が不足しているため、今後、会社訪問・企業交流会等への積極的な取り組みが必要である。

中期目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 生徒の進路実現をサポートし、進学実績を向上させる。
- 高大連携事業を積極的に活用する。
- 職業観の育成をはかり生徒の自己実現の可能性を広げる。
- 将来の進路に向けて、目的・目標や職業意識等、個々のキャリアを考えさせる。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 新型コロナウイルスによる混乱の中、一人ひとりの進路実現に向けて、きめ細かな進路指導・面談・補習等を実施し学力向上をサポートする。
- ② 進路説明会を実施し、進学に対する目的・目標や職業意識等を育成する。
- ③ 経済悪化による求人数減少が予想されるが、指定校企業やハローワークと連携を密にしながら就職実績を継続させる。
- ④ 高大連携によって、生徒の学習意欲や目的意識を高め、適切な進路選択を支援する。

3. 本年度の自己評価結果の総括

コロナの影響により4月から休校になり進路年間スケジュールを組み替えることになった。進路指導部の業務は多種におよんでおり、役割分担を機能的に組むことができなかったため、余分に時間を費やしてしまった。また、本年度からの大学入試方法の変更について過剰に意識（試験の種類や出願時期など）してしまい、その情報に惑わされて予定を立てることに困惑した。進路説明会をはじめ進路イベントに関しては3年生を中心に実施するが、1年生・2年生に対しても学期ごとに最低1回以上実施するほうが、進路意識啓発のためになるであろう。また、就職に関して次年度予想される求人数減少のためインターンシップや企業訪問などを検討したが、実際にアクションを起こすまでに至らなかった。進路資料室の利用について、生徒の求めている情報や資料が、すぐ手に取ることができる工夫をする余地があるように思う。

(6)〔健康教育部〕

1.学校運営の中期目標

現状と課題

欠席・遅刻、不登校傾向生徒が増加傾向にあり、それが常態化している。心が未成熟な生徒、指導が入りにくい生徒の存在、その背景にある家族の形態の多様化や家庭の指導力の低下が憂慮されている。

中期目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

美化・環境整備に関心を持ち、地域の防災リーダーになれるような取り組みを進める。

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 心身の健康に関する正しい知識を身につけさせる。
- ライフスキルを確立させる。

2.中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 感染症について広く知識を持ち、望ましい生活習慣や行動を身につけさせる。
- ② 行事ごとに保健委員・設備美化委員をリーダーとした啓蒙活動を行い、自主的な美化清掃活動を徹底させる。
- ③ 校内のごみの分別、軽量化に向けて取り組みを進める。
- ④ 一人一人の生徒の成長に関わっていけるように、教職員間の連携を強め、情報や対応の仕方について、協議を重ねながら共有できる体制づくりをする。

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 定期健康診断の事後措置で、精検を指示された生徒へ早期受診を促し、学習活動に支障のないように指導する。
- ② 慢性疾患を持つ生徒には、自己管理ができるように定期的に懇談の機会を持ち、心身の安定を図るように指導する。
- ③ 心の健康に問題を抱える生徒には個々に応じたアプローチをし、行動化に結び付くような指導を心がける。
- ④ 生涯にわたってよりよく生きるために、また仲間や生徒の心の不調にいち早く気づくことができるように、生徒・教職員のMHL（メンタルヘルスリテラシー）教育を充実させる。

3.本年度の自己評価結果の総括

- ・コロナ禍によって感染症対策を充実することになり、例年よりインフルエンザ、感染性胃腸炎などの罹患数が減少した。例年よりも定期健康診断受診後の受診率はかなり減少したが、感染を避けるためであろう。歯科受診の低下による口内環境の悪化、持病管理への影響を懸念している。
- ・精神年齢の低さ、発達障害などによる問題（行動面・精神面）が表面化することが顕著になり方策の必要性を感じる。
- ・委員会活動を通じて防災リーダーの育成につなげることが出来た。
- ・心身ともに健康である状態（ウェルビーイング）を高めるよう働きかけをしていきたい。

(7)〔人権教育推進委員会〕

1.学校運営の中期目標

現状と課題

本校においては、基本的な生活習慣が確立した生徒が多く、授業や部活動、特別活動に積極的に参加する傾向がみられる。校内では特に目立ったトラブルはなく、生徒たちは概ね落ち着いた学校生活を送っている。一方では、帰国生選抜で入学する生徒も毎年おり、異文化理解や共生がより一層求められる現状もある。

中期目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 自らの人権を守るとともに、他の人びとの人権を認め、お互いを尊重しあえる態度を育て、将来にわたり民主的社會を構成する一員として必要な思考力と行動力を身につけさせる。

2.中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 時代のニーズに即した身近な問題を取り上げ、生徒の実態に応じた人権教育を推進する。
- ② P T A人権委員をはじめ保護者や地域との連携を図り、さまざまな人権問題についての啓発をめざして、講演会等の研修会を実施する。
- ③ 教職員間での人権意識の向上をめざして、講演会等の研修会を実施する。

3.本年度の自己評価結果の総括

コロナの影響により例年3学年とも2回、LHR時に学年別の人権学習の時間をとっていたが、3年を除いて1回に削減していただいた。その分タイムリーな話題で生徒になじみやすいものとした。特別指導会議に人権にかかわる事案には加えていただくことにしたので今後とも継続して欲しい。文化祭・送別会で上映される作品については全て見て、配慮を要する言葉があった場合は何故その言葉が良くないのか説明したうえで訂正してもらった。全校一斉人権学習は当初は『スマホ・ネットの現状と対策』について講師を招へいする予定であったができなかったため次年度は10クラスとなり体育館での学習が可能となれば実現したい。

(8) [英語科]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

グローバル社会で活躍する人材の育成と、一人ひとりが希望する進路の実現をめざすべく日々取り組みを行っている。英語の運用能力を高め、資格取得支援の充実と、進路実現に向けてのさらなるきめ細やかな指導が必要である。また、大学入学共通テストへの移行や学習指導要領の改訂を考慮し、生徒たちが必要とされる学力を効果的に習得できるよう、カリキュラム、授業案、教材等を研究し、実践する必要がある。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 進学先や検定合格結果から、卒業までに基礎・基本のみならず発展段階まで学力が定着したと認められる生徒の割合を、前年度の水準より増やす。
- 豊かな語学力を身につけ、海外に日本の文化を発信するとともに、外国の文化を理解、尊重し、グローバル社会で活躍できる人材を育てる。
- 英語でのプレゼンテーションやスピーチ、エッセイライティングなど英語の運用能力を総合的に向上させ、英語表現能力を強化する

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- グローバル社会・情報社会時代に生きる、明るくたくましい人材の育成をめざし、国際交流に積極的に参加する生徒の割合を、前年度の水準より増やす。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 効果的な授業案や指導により、英語の運用能力を身につけさせ、英語検定の合格率を、前年度の水準より上げる。
- ② 生徒の希望を実現できる進路指導やガイダンスを、前年度と同じ回数行う。
- ③ 組織的な補習体制を組み、生徒の進路実現を支援するため、週1回以上の補習をする。
- ④ 日本本文化を発信し、異文化を正しく理解する機会（教材、プレゼンテーション）を増やす。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 授業などで国際理解の大切さを理解させ、姉妹校への語学研修やホームステイ申込者数を、前年度の水準より増やす。
- ② 英語をより実践的に使えることをめざす教育を充実させ、訪問団との交流の参加者数を、前年度の水準より増やす。
- ③ 英語を使って発信することの意義を学ばせ、スピーチコンテストなどへの参加者数を、前年度の水準より増やす。

3. 本年度の自己評価結果の総括

コロナ禍の中、例年行ってきた行事や活動が制限される中、担当者間で協力、工夫を行い教育活動を行った。休校期間中には、Edmodo, X-Reading などを用いて課題の配信を行い自学自習の意識を高めることができた。例年、宿泊行事として行っていたサマーセミナーを校内にて工夫して行った。生徒の英語運用能力の向上のために、各授業、行事にて、工夫して言語活動が行われている。Progress、オンライン英会話、進路・検定対策補習、面接指導など、教育活動をより充実していくことに努めた。

(9)〔流通経済科〕

1.学校運営の中期目標

現状と課題

- 全商簿記検定1級取得を目標とする。苦手意識が強い生徒には、情報処理検定1級か英語検定1級を目標とし、いずれかの検定1級取得に注力させ、個性を伸ばす。生徒の状態をみながら、他の様々な検定にも挑戦させ、無級状態にならないようにする。
- 流通経済科の目標・進路・活動内容が中学校側に伝わるよう、新学科のPR活動が必要である。外部(中学、保護者、地域)にも積極的にPRする。
- 現状に満足してしまい、今の力で入れる進路先に安易に進学・就職を決めてしまいがちである。目的意識の高揚が必要である。
- 就職、AO・推薦入試で課される面接において、部活動・検定以外にもアピールすることができるスキルの習得や校外活動への参加を促す。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 1年生から、流通経済科の進路先、必要な学習・検定を生徒自身が理解し、注力できるようにする。特にアドミッションポリシーに掲げる「世界のあらゆるビジネスシーン」で活躍する力の基礎として、簿記・英語情報処理検定の合格率をあげる。また、英語の資格が重視されている点も認知させる。それらの資格をいかした進学・就職率をあげていく。
- ② 学年と連携し各学年に応じた、科による進路ガイダンス(外部連携授業、就職講話、適性検査など)を継続して行う。4年制大学の専門学科推薦や学科の特色を生かしたAO入試での進学に挑戦するように指導する。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

- ① アクティブラーニングの機会を増やし、授業を通じて課題を見つけさせるように指導する。

2.中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ② 流通経済科のロードマップに基づいた指導の徹底。簿記・情報処理検定合格率を向上させ、英語科(全商英検・STEP英検)との連携を進める。
- ③ 各学年の流通経済科の授業において進路実現に必要なスキルや検定を紹介できるようにする。学科の特色を生かしたAO入試や専門学科推薦での4大受験数の増加を目標とする。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

- ① 校外活動への参加生徒、提供する機会を増やす。(見学会・講演会・実習・コンテスト・発表・インターンシップ・高大連携企画 参加者各学年10名以上)
「ビジネスマナー」や「マーケティング」などの科目を通して、自主的に課題を見つけ、イベントや販売実習などの企画・実施・総括までを行う。多種多様なアクティブラーニングを取り入れ、地域や企業などの協力を得て活動し、科の取り組みについて地域や中学校での認知度を高める。3年次に学科全体で取り組む。

3.本年度の自己評価結果の総括

コロナの影響により授業時間が制約を受け、授業計画の見直しを迫られた1年であったが、簿記・情報処理等の検定取得者数はいずれも前年を上回ることができた。シャッターイベントには、急な企画にもかかわらず、生徒たちは限られた時間の中で積極的に参加した。また、今年度の新

しい試みであったマーケティングの授業でのプレゼンテーションは、生徒各自がビジネスについて考える契機になったのではないかと思う。

コロナの影響が不透明な中、来年度の取り組みについては流動的であるが、「流通経済科」に相応しい取り組みを積極的に行っていきたいと考えている。

(10) [情報科学科]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

近年、授業をきっかけに自ら学び専門力を高めるカリキュラム構築を進めてきた。その成果もあり、情報分野に興味・関心を示す生徒が増え、課題研究等では生徒が自ら探究し作品制作をおこなっている。今後は、Society5.0の時代をリードする人材を育成するため、授業内容に更なる最先端技術の内容を取り入れていく必要がある。

情報科学科の進学実績は、AOや専門学科推薦など推薦入試が大半を占めている。多様入試に対応し、大学進学率を維持するために生徒の専門力を高め、校外活動への参加を促す。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

情報技術が日々進化する中で、AI・IoT・データサイエンスなど最先端技術の内容も取り入れた授業を実施する。また、昨年度まで3年間実施している高大連携のハイスクールハッカソンは、情報科学科での学びを統合した探究活動であり最も有意義な活動の1つである。関西大学での実施が難しくなる中で存続させる必要がある。

専門力の向上と進路実現のために、実習内容の充実で興味・関心を深め、大学に提出できる作品制作を促し、情報関連の資格取得者を増加させる。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

情報化社会におけるモラル教育を徹底し、ネットワークや機器の健全な活用能力を育成する。アクティブラーニングなど探究的な学習における情報教育が担う役割を理解させ活用できるようにする。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 本年度はIoTの分野に力を入れるため、3Dプリンタに加え新たに導入したレーザー加工機を使用し、モノづくりの部分について強化する。また、作品提出型の入試に対応できる作品の制作を促す。
- ② 本年度も関西大学との高大連携によるハイスクールハッカソンを実施する。
- ③ 情報分野の国家試験や情報技術検定の受験を促し、合格者数を増加させる。
- ④ 卒業後の進路について、将来の職業やそれにつながる進学先などの具体的なイメージを持たせ、生徒個々の進路希望に応じた個別指導の充実を図る。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 授業や実習を通じて、ネットワーク時代の情報管理と取扱いのモラルについて意識させる。
- ② ネットワーク通信の仕組みを理解することにより、安全かつ合法的な利用方法を習得させ、自己理解、他者理解を通じて道徳心の育成を図る。

3. 本年度の自己評価結果の総括

2・3年生ともに、授業だけでなく放課後の時間も使い、作品制作に没頭する生徒が多くみられた。特に課題研究では、多くの班でクオリティの高い作品が完成した。このように、専門科目の授業は、生徒の興味・関心を示す内容になってきていると考えている。今年度は、コロナウイルス感染症の影響が大きく、国家試験の中止が相次ぎ、ハイスクールハッカソンも大学側が受け入れできない状況であった。例年通りとはいかない状況の中、生徒たちは何とかモチベーションを維持し、結果を残してくれたと感じている。

次年度は、情報科学科の最後の1年となる。コロナウイルスの影響がどの程度あるか分からないが、創意工夫をしながら生徒の興味関心を引き出し、より良い授業を展開していきたい。

(11)〔教育情報科〕

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

令和4年度の新校統合につなげるべく、新しく教育情報科が誕生した。西高校の良き伝統を凝縮し、情報分野と英語分野の学びを中心にコミュニケーション能力の高い人材の育成を目指す。本年度の入学生は、高い倍率の入試を勝ち抜き、例年以上に優秀で意欲的な生徒であると考えられる。アドミッションポリシーに掲げた教育を実現し、生徒たちの求める教育の機会を提供できるよう、試行錯誤を重ね質の高い授業を構築していく必要がある。

課題としては、2つの分野を学ぶためそれぞれの授業時間数が減少することがあげられる。そのため、両分野で高い専門力が身に付くように、授業内容を精査する必要がある。また、授業外での自学自習が進むように教育支援を行っていく必要もある。また、コミュニケーション能力を高め、社会のリーダーとしての資質を育てるために、1年次の教育探究の授業が大切になる。

教育情報科の初年度であるが、本年度の入試においても中学生に西高校を評価してもらえよう1年目から実績をあげる必要がある。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○ 映像や3DCG、アプリケーションの制作からデータサイエンスまでを経験し、高い情報活用能力を身に付けることで、将来情報を積極的に活用し社会で主体的に活躍できる人材の育成を目指す。また、高い情報活用能力を身に付け、情報分野の技術者を目指す生徒には、AIやIoTなど最先端技術にも触れさせ開発者としての学びのきっかけを提供する。

○ 英語での日常会話、プレゼンテーション、スピーチ、エッセイライティングなどを通して英語の運用能力を向上させ、日常生活において活用できる英語表現能力を身につける。海外に日本の文化を発信するとともに、世界の様々な国や地域の文化に関する理解を深め、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。英語検定やGTEC、オンラインによるアセスメントや学習ツールを活用し、主体的で自律的な学習を支援する。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○ 高いコミュニケーション能力で社会のリーダーとして活躍できる人材を育てるため、教育探究を中心にさまざまな授業でアクティブラーニングや探究学習をおこなう。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 1年生では、パソコンを無理なく扱える情報リテラシーを習得する。また、ビジュアルプログラミングから始め、楽しみながらプログラミングやハードウェアの基礎的な知識を習得する。
- ② 主体的、積極的に英語を使ってコミュニケーションをとろうとする姿勢を育成する。日常的な話題や社会的な話題について、話し手や書き手の意図を的確に理解したり、情報や考えを適切に表現できる基礎的な力を身につける。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 教育探究の授業において生徒間でコミュニケーションをとる機会を増やし、様々な分野にわたる興味関心を深め、リーダーシップの醸成を目指す。

3.本年度の自己評価結果の総括

生徒たちはアドミッションポリシーを理解し、情報と英語の両分野に興味を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。また、教育探究の効果もありコミュニケーション能力の向上が感じられる。しかし、2つの分野を同時に並行して学ぶため専門性を高め切れていない現状がある。2年次からは、どちらかの分野に軸足を置き、両分野を学ぶことになる。そのため、自分の選んだ分野の専門性をより高めつつ、両分野が得意科目となるような学びをして欲しいと考える。次年度は、情報の国家試験や英検2級の合格者を多数輩出できるよう、補講なども実施しより一層きめ細かい指導をしていきたい。

(12) [国語科]

1.学校運営の中期目標

現状と課題

多くの生徒が基本的な国語力を有してはいるが、国語を的確に理解し、適切かつ効果的に表現する能力を向上させる必要がある。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育てる。

2.中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 漢字や現代用語、古文単語などの語彙の学習により、基礎的な力の向上をめざす。
- ② 読解力と共に論理的思考力・表現力を身につけ、ものの見方・考え方を深める。
- ③ さまざまな作品・文章に触れることで、想像力を養い言語感覚を磨いていく。
- ④ 生徒の進路希望状況に応じて、個別指導や補習を実施する。

3.本年度の自己評価結果の総括

- ① 長期休みや日常の課題として取り組ませた範囲を復習させ、定期的実施する小テストで定着度の確認をおこなった。その成果は、平常点として評価に取り入れた。
- ② 教科書の作品を読み解いたあと、要約文を書くことで読解力と表現力の定着を確認する機会とした。
- ③ 授業の課題として短歌・俳句やエッセイの創作に取り組んだ。外部のコンテストに応募して入賞者が出たことで、創作意欲を高めることができた。
- ④ 生徒一人ひとりの進路実現の支援として、平常時の個別指導などをおこなった。

(13) [地歴公民科]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

地歴公民科では、我が国の社会の一員として生きるための必要最低限の知識の習得に加えて、これからの社会において主体的に行動し、より良い社会を作り上げる人間を育てる必要がある。また、本校における進路の多様性を踏まえて、大学の受験に対応したカリキュラムを構成することが求められている。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○ 基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育てる。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 各必修科目において、高校での地歴公民学習への導入と動機づけを行う。
- ② 1年の「現代社会」の授業において、社会の出来事への関心を高め、現代社会の基本的な問題についての理解を深めさせる。
- ③ 2年の「世界史A」の授業において、世界の近現代の歴史を我が国の歴史との相関を踏まえながら、現代社会の諸問題の原因等に着目して考察させる。
- ④ 3年の「日本史A」の授業において、我が国の近現代の歴史を世界の歴史と関連づけながら、現代社会の諸問題に着目して考察させる。

演習等の選択科目の授業において、「地歴公民科」を大学入試の受験科目とする3年生を対象として、放課後や夏季休業中を利用して、補習を実施する。

3. 本年度の自己評価結果の総括

グループディスカッションなどの密になる授業形式はコロナ禍でできなかったが各科目において個々の生徒に発言させ、それに対して他の生徒に意見を求める形の授業はできた。例年に比べて共通テスト・旧公募制推薦・一般入試で地歴公民科を使う生徒が少なく、早い段階で地歴公民科を入試で活かすことの有利性を啓発していく必要があると思う。補習で地歴公民科をきっちり勉強した瀬音は共通テスト・一般入試で高得点は採れている。

(14) [数学科]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の生徒には数学に苦手意識を持っている生徒や、数学嫌いの生徒が多く見受けられる。彼らの苦手意識を少しでも和らげ、数学的（科学的）思考法を身につけさせる。

中期目標

- 【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】
- 新学習指導要領に向けて、表現力をつけられるような取り組みをする。
 - 生徒の理解度を把握し、教材・授業内容を精選する。
 - 生徒が興味を持って学習に取り組めるよう、話題や教材を工夫する。
 - 家庭学習の習慣をつけさせ、家庭学習時間を増やす取り組みをする。
 - 個別またはグループ別に補習を行い、数学の単位不修得の生徒数を最小にする。
 - 受験（共通テストを含む）などにおいて、数学を必要とする生徒に対して補習を行う。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 机間指導や小テスト等で生徒の理解度を把握し、授業内容に反映する。
- ② 学習の動機づけとなる話題や教材を生徒に提示する。
- ③ 復習を習慣づけるため、できるだけ頻繁に課題を与える。また問題集を有効に利用し、各定期考査後または長期休業後に解いたものを提出させ、自主学習の習慣をつけさせる。
- ④ 理解度や進路希望等を考慮し、放課後や長期休業中に補習等を行う。
- ⑤ 看護・医療系志望や高専志望、専門学科推薦での受験をする生徒に対して、年間を通じて目的を達成する時期まで補習を行う。

3. 本年度の自己評価結果の総括

- 単元はじめの動機付けや、生徒への発問、小テスト、独自のプリント教材などを活用することにより、生徒の理解度に合わせながら、生徒が理解できる授業に努めた。
- 授業ごとの課題や小テスト、定期考査前後の課題、長期休業中の課題を活用して、日々の家庭学習習慣を定着させた。また、定期考査時の課題提出や定期考査のやり直し提出により、計画立てて学習できるように指導した。
- 放課後を中心にして主に3年生向けに、個々の希望進路に応じた補習を行い、生徒の希望進路を実現させるための手助けに努めた。

(15) [理科]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

- 入学以前の理科の知識に大きな差があり、理数に苦手意識をもつ、基礎知識の乏しい生徒が少なくない。よって、科学的な時事問題にも興味を持ちにくいのが現状である。
- 3科とも専門学科であるため、理科の単位数が普通科高校より少なくなり、あらゆる進学先に対応しているとは言い難い。

中期目標

- 【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】
- 効率的な学習を設定するために、基礎学力の定着と発展を図る。
 - グローバルな視点から、科学的な問題にも関心をつなげる授業を展開する。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 小テスト・宿題を実施し、基礎事項の理解・定着を図る。
- ② 実験・観察などで、安全に対する意識徹底教育と共に、基礎事項の理解を深める。
- ③ 放課後・昼休み・長期休業中を利用した補習を行い、進学希望者に対しては大学入試レベルの実力を、理解が不十分生徒には基礎学力をつけさせる。
- ④ 視聴覚教材を活用し、環境問題、感染症、エネルギー問題等の時事問題にも、発展的学習として取り組む。

3. 本年度の自己評価結果の総括

- ① 理数系科目について苦手意識を持つ生徒が多い中で、小テストや宿題、補習、実験、観察を適宜取り入れながら、興味関心の向上と基礎力の定着に努めた。
- ② 動画、実験、パワーポイントなどを活用することにより、学習内容に興味を持たせ、生徒それぞれの理解度に沿った授業を展開できた。
- ③ 授業で取り上げる話題も身近なものを厳選し、生徒が興味関心を持てるように工夫した。理科に対する苦手意識はなかなか消えないが、真面目に取り組めば結果につながると感じている生徒も多い。
- ④ 夏季休業や放課後を利用して進学希望者を対象とした補習を実施した。大学入試共通テストの基礎科目に対応できるように補習内容も工夫した。
- ⑤ 理系大学の面接(口述)試験指導を実施した。

(16) [保健体育科]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

多くの生徒が健康で充実した学校生活を送っているが、運動・健康に対する知識が不足していることで、身体能力向上への意欲に欠ける。

中期目標

- 【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】
- 保健や体育理論の知識を身につけることで、日常生活に応用できるようにする。
 - 知識・技能を身につけることで、生涯を通じて身体の健康を保つ力を育てる。
 - 生涯を通じて健康的な生活を送るための体力を向上させる。
- 【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】
- 集団行動・各種競技を通じて、規範意識と協調性を養う。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

- 【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】
- ① 自らの健康を維持するために保健内容を理解し、基本的な生活習慣を身につけさせる。
 - ② 体育理論の理解をとおして、体力の向上を図る。
 - ③ 正しいストレッチの方法を理解し、怪我の防止に努めさせる。
- 【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】
- ① 実技の授業をとおして、集団と個人の特性を理解し、規範意識や協調性を向上させる。
 - ② 用具の点検や授業の準備を協力して行うことで、社会性や協調性を育てる。

3. 本年度の自己評価結果の総括

生徒の協力を得ながらコロナ対策を徹底し、年間を通じて感染予防に努め、安全に授業をおこなうことができた。授業参加の不十分な生徒には補習を実施し、基礎体力の向上に努めた。

また、集団行動をとおして、規範意識・協調性を高め、社会性を身に付けさせることができた。今後も生涯にわたって健康的な生活が送れるよう指導を続けていきたい。

(17) [家庭科]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

生活する力を身につけるために、基礎的な知識のほか、生徒が主体的に実践することが必要である。

中期目標

- 【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】
- 各分野において、基礎的な知識・技能を習得し、それらを実生活と照らし合わせながら、学習への理解を深める。
 - 実践的・体験的な学習を通して、自ら考え、判断し、表現する力を育てる。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

- 【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】
- ① 生徒が関心を持って取り組めるような題材を取り上げ、家庭生活に応用できる力を身に付けさせる
 - ② 実験・実習は、生徒が主体的に取り組むことができるよう内容を工夫する。
 - ③ 家庭生活中で生かす実践力の重要性を理解させる。

3.本年度の自己評価結果の総括

各分野において、実生活との関連が持てるような題材を取りあげながら授業を行った。今年度は動画や画像などを活用できる設備が整い、視覚からのアプローチもできるようになり、生徒の関心を高めることができた。また、コロナの影響もあり実習の回数は減ったが、コロナ対策を考慮しながら実習を行うことで、今必要な知識や対策を考えることができた。実際に生活の中で活用している様子がレポートなどからうかがえた。今後も社会の動きに応じて授業内容を精選し、家庭生活がより安全で豊かになる授業に努めたい。

(18) [芸術科]

1.学校運営の中期目標

現状と課題

書道

○中学校ではほとんど授業がないのが現状であり、「お習字」段階から芸術にまで高めなければならない。そこで、生徒の意識を高め、技術指導をする必要がある。

美術

○授業数が少なくなり、道具の使い方や自分を表現する仕方が定着せず苦手意識を持つ生徒が増えている。興味関心意欲を高めるためには、その苦手意識を取り除くための指導が必要である。

音楽

○漠然と授業に参加するという現状から、音楽を楽しむという姿勢を持ち意欲的に合唱合奏に参加し、音楽的技術を向上するための指導が必要である。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

書道

- 書道に意欲的・主体的に関われる生徒を増やす。
- 完成を高め、漢字・仮名・感じかな交じりの書の学習に個性的な思考・判断ができる生徒を増やす。

美術

- 道具・素材を生かし創造的な表現をするために必要な技術を身につけた生徒を増やす。
- 美術に意欲的・主体的に関われる生徒を増やす。

音楽

- 音楽に主体的・意欲的に取り組める生徒を増やす。
- 音楽を通して自らの根底に流れている精神を発見し、自らを見つめなす機会を与える。
- 音楽を通して内面的な成長を遂げられるようにする。

2.中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

書道

- ① 書道に意欲的・主体的に関われる生徒を増やす。
- ② 完成度を高め、漢字、仮名、漢字仮名交じりの書の学習に個性的な思考・判断ができる生徒を増やす。

美術

- ① 道具・素材を生かし創造的な表現をするために必要な技術を身につけた生徒を増やす。
- ② 美術に意欲的・主体的に関われる生徒を増やす。

音楽

- ① 音楽に関心を持ち、どのようなジャンルでも意欲的に取り組める生徒を増やす。
- ③ 音楽の基礎を身につけて、読譜力、ソルフェージュ力を増やす。
- ④ 合唱作品に取り組み、自然に協調性を身につける。

3.本年度の自己評価結果の総括

教える学年が変わり基礎技術からの自己表現へ、それぞれの個性を出す作品作りを行うことへの難しさがでた。そのため視覚情報などの情報の取り入れ方への創意工夫を次年度もさらに深めていきたい。

(19) [1 学年担任団]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

- 新学科となり、人数も2クラス80名の学年となる。新入生は情報と英語の2分野に興味を持っていることが考えられるが、以下の課題が考えられる。
 - ⇒ それぞれ専門科目の授業時間数の減少に対してどう対策するか。
 - ⇒ 早期にどういった適性や、興味関心があるかを見極めて適切な教育提供が必要。
 - ⇒ 専門科目の到達目標や、それぞれの強みを生かし、どう新たな進路実現へと繋げるか。
- 入学時期の遅れから以下の課題が考えられる。
 - ⇒ 年次進行による学校の規模縮小化や、学校生活・行事に対する不安。
- AIやIoT、インターネットなど、情報技術のめざましい進化や、訪日外国人の増加、未曾有の感染症拡大による社会の変化などから、学校、職業、自分自身の生き方などについての考え方がより一層多様化してきている。
 - ⇒ 多様性を受け入れながらも、集団とのコミュニケーションの必要性を理解し、自分の考えを持ち、主体的に進路選択ができる生徒を育てることが必要である。
- 昨今の過度な教育サービスを受け、自主的な挑戦、継続をしない生徒の増加が考えられる。
 - ⇒ 自己責任感、1歩踏み出す力、大切なときに踏ん張ることができる力を身につけさせる必要がある。

中期目標【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 情報・英語という2分野において専門性を備え、自分の強みを理解し、さらに発展させていこうという意識を育てる。
 - 挨拶、言葉遣い、礼儀を意識して、自主的に行動できる生徒を育てる。
- 【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】
- 学校が生徒たち一人一人を尊重し、それぞれの個性を伸ばすことを目指す。また、生徒たちもお互いを尊重し、多様性を認め合いながら、それぞれが自律した個人となることを目指す。
 - 保護者や関係部署との協力体制を築き、学校を生徒が安心して成長していける場所にする。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 情報と英語の両分野における基礎知識を定着させて、2分野において次年度以降の発展的な学習につながる学力をつけさせる。
- ② 生徒の適性、興味関心を見極め、適切な情報提供を行い、積極的な課外活動への参加を促す。
- ③ 進路決定の際に、自らの専門性をより効果的に生かすために、基礎学力を高めるよう促す。
- ④ 挨拶、言葉遣い、礼儀の大切さを十分理解させる。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 学年団と学科長の4人で教育相談体制を充実させ、常に生徒80人に4人のうちの誰かが目を届かせておき、適切なタイミングで適切な声掛けができる状態を作っておく。
- ② 学校行事やホームルーム活動、教育探究の授業を通して、自己理解、他者理解を深め、自発的に集団を意識した行動ができる力を養う。
- ③ 保護者や関係部署との連携を密にするため、機会を作り、生徒の変化に迅速に対応できる体制を整える。

3. 本年度の自己評価結果の総括

統合、クラス数現象の影響も今年度は少なく、朝学、風紀指導、学校行事とこれまでの西高校の伝統を引き継ぐことができた。コミュニケーション力が不足する生徒が多いのは否めないが、教育探究、イングリッシュセミナーなどコミュニケーション力を上げていく授業を通じて、少しずつ改善されている傾向はみられる。検定を意識する生徒の数も増えてきており、次年度以降は行事をもう少しうまく活用して、進路を見据えた活動を自主的にできるように促していきたい。

(20)〔2学年担任団〕

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

1年生における3学科混成のミックスホームルームクラスを経て、互いに他者を認め合い自らの能力・個性・長所を伸ばすことが概ねできている。学校行事、団活動においては初のクラス減による活動となる。自分たちが西高校を盛り上げていくのだという自覚を持たせ、学校行事や部活動などに積極的に取り組ませよう促す。今後は3学科が連携を取りながら専門学科としての特徴ある能力をさらに伸ばし、自己実現ができるようさらに支援を行う。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】
 基礎的な知識・技能の習得とともに、専門的な学力向上をめざす。自ら考えて判断し、行動・表現できる力を育てる。
 【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】
 ○基本的な生活習慣を身につけ、自主的に社会に貢献する人材の育成をめざす。
 ○何事にも前向きで、積極的に取り組む。また、「学校生活を楽しむ」ために校則、規則を遵守できる自立した人間のコミュニティを構築する。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】
 ・朝学習を継続し、基礎学力の定着をさらに深めるとともに、より専門的で高度な学力の向上をめざす。自主的に1日最低1時間の家庭学習をおこなう習慣を身につけさせる。
 ・日々の学習を基にしながら、自主的かつ能動的な学習をする姿勢を育成し、自ら進路を見出す姿勢にもつなげさせる。
 【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】
 ・高校生としての「マナー」をしっかり身につけ、自発的に「ルール」「時間」「約束」を守ることができる人間形成を行う。欠席・遅刻を減らせるように自己管理を徹底させる。
 ・学校行事・部活動など、特別活動へ積極的に参加し、上級生としてふさわしい集団行動での自主性や協調性、リーダーシップを身につけさせる。
 ・日頃から保護者や地域社会および関係部署との連携を密にし、問題行動を未然に防ぐとともに問題発生時には、状況の把握、迅速な対応、円滑な解決に努める。

3. 本年度の自己評価結果の総括

○ 各学科の特徴を活かした朝学を年間通じて実施し、基礎学力の定着を図ることができた。各専門教科の高度な学力を向上させるための家庭学習課題に日々取り組むことで、家庭学習の習慣、および学力向上につながったと考える。
 ○ 希望の進路実現に向け成績向上に努力し、格取得のための専門的な学習に積極的に取り組む生徒も増えており、すでに全商1級3冠以上取得者も多数出てきている。その中であって、まだまだ目標が定まっていない生徒も見られる。様々な進路を希望する生徒たちに次年度も継続して対話を重視しながら、個々に応じたきめ細かい指導を行いたい。
 ○ 長期欠席者が出ることもなく、昨年よりも欠席数は減少した。また、生指遅刻指導を個別に声掛け指導することで大幅に減少させることができた。しかし、少数ではあるが遅刻常習者の生徒がおり、改善がまだまだ必要と感じる。

- 各種学校行事や団活動では、各生徒が自主性や協調性の面で成長している様子が見受けられる。リーダー、サブリーダーも徐々に現れてきており、コロナ禍・生徒数減の中でも、前向きに行事に取り組んでいってくれるであろうと、次年度に向けて期待が持てる。

(21) [3学年担任団]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

これまでに培った基礎的な知識・技能を前提とし、より高度な知識・技能を身につけさせるとともに、専門学科としての特徴ある能力をさらに高め、自己実現ができるよう支援する。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- これまでに培った基礎的な知識・技能を前提とし、より高度な知識・技能を身につけ、専門学科としての特徴ある能力をさらに高め、自己実現ができるよう支援する。また、自ら考えて判断し、行動・表現できる力を育てる。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 豊かな人間性を育み、社会を構成する一員であるということを自覚させ、社会に役立つ能力と主体性を持つ人格の形成を目指す。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 朝学習を継続するとともにその内容も精査し、基礎学力の定着および専門的で高度な学力の向上をめざす。また、自己実現、希望進路実現のための家庭学習の必要性を認識させ、自ら進んで能動的に、毎日最低2時間程度は家庭学習をおこなう習慣を身につけさせる。
- ② 生徒一人ひとりの進路の目的を把握し、保護者・進路指導部と十分な連携をとりながら、希望進路実現のための的確な支援を行えるよう配慮する。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 自主的で良好な基本的生活習慣の確立をめざす。
- ② ホームルームや学校行事等の日常生活を通じてルールやマナーを守り、社会性を身につけた人格を育成するよう指導していく。
- ③ 様々な活動を通して、最高学年としてふさわしい集団行動での自主性やリーダーシップを身につけさせる。
- ④ 保護者や関連各部署及び地域社会との連携を密にし、問題行動を未然に防ぐとともに、問題発生時の迅速な対応と円滑な解決に努める。

3. 本年度の自己評価結果の総括

○ 基礎学力の定着およびそこから繋がる希望進路を実現させるための個々の学習活動の支援を続け、ほとんどの生徒が自己実現のための努力を重ね、一定以上の資格取得も実現できた。進路指導部とも連携しながら、生徒の希望進路先も概ね決定している。

○ 全体的には本校のルールやマナーを理解して守ろうとしているが、中には遅刻指導や生活指導が必要な生徒もいるので、教員間の連携や家庭との連携を十分に取しながら、根気強く改善に向かうよう努めてきた。

○ 学校行事や部活動については、コロナ禍で、困難を極めたが、生徒たちが最高学年として主体的にリーダーシップを取って取り組んでくれた。

○成績や進路についての懇談も、保護者と連携しながら円滑に進めることができた。